

1 今年度の達成目標

学校経営を行うためには、経営に関わるメンバー（学校教職員・児童・保護者・地域支援者）が目標を共有することが第一に大切なことだと考えます。

そして、その目標を実現するために、何を行うのかという手段を見出し、その手段を一人一人の仕事分担や個性と持ち味を生かし、工夫改善を行いながら実践し、目標の実現を図っていくことが経営であると考えています。

その経営全体の姿を以下のように、学校経営グランドデザインとして表しています。

目標が①、手段の大枠となる今年度の重点方策が②、重点方策を学力向上、生徒指導・学校行事、体力向上としてさらに具体的手段として示したものが③、年度末に実現する学校の姿を④としています。

①に達成目標として掲げた「卒業時に目指す姿」は、4月に全職員で目指す児童像「かしこく やさしく たくましく やり抜く子」を具体化させ、どのような姿を実現したいかをワークショップ型で話し合い決定したものです。柏市が掲げる「4つのC」についても、関連する姿に位置付け、本校が目指す児童の姿との一体化を図って設定しました。

③に挙げた重点方策の実現状況を学校評価アンケートから読み取り、①の目標達成に向けた取り組みを整理し、次年度のすることが、本校の学校評価のねらいです。

2021年度 土小 学校経営グランドデザイン

学校教育目標 自ら学び 心豊かで たくましく 土っ子の育成

めざす児童像 かしこく やさしく たくましく やり抜く子

④

中期目標 3年後に実現したい学校像
地域と共に教育課程を共有し、目指す子どもの姿の実現に向け、学校と地域が一体となって教育活動を行う学校。

④

短期目標 21年度末に実現すること

土小の職員が目指す児童の姿を共有し、3つの新を週して新たな2022が共々実現できる。
土小学校教育協議会を推進し、地域と学校と共に、目指す児童の姿を共有する。

①

卒業時に目指す姿

かしこく

- ・ 学んだことを、生活や社会の中で活かせる【Concept取り取り】
- ・ 問題や課題の解決に、積極的に取り組む【Challenge取り取り】
- ・ 多様な手段を積極的に活用することができる。【こと、目標、課題を達成、共働き人材】

やさしく

- ・ 他者のことを加えようとしたり考えたりできる【Concept】
- ・ 異なる人々と積極的に関わり、困っている人を助ける【Concept】
- ・ 多様な価値観を認め合うことができる

たくましく

- ・ 自分で目標を設定し、調整しながら達成させる【Communication 自己発見】
- ・ 困難も克服し、トライ＆エラーで新しい方法を思いつける
- ・ 個人と時に競い合える状況に向かうことができる

②

経営重点手段 3つの新

新学習指導要領に沿った土小教育課程、教科横断的な計画を創る
新しく生まれ変わった校舎と教育設備（GIGAスクール等）を生かした実践を創る
新型コロナウイルス感染症対策から、「できない」ではなく「できる」を探す

②

目指す教師像

目指す資質・能力を育むため...
チームで考え
チームで言い
チームで振り返る

③ 具体的な取組み

実現手段	学びプロジェクト	心プロジェクト	健康プロジェクト
<p>1 新土小がコミュニティ創り 総合的な学習の時間を向かい、「土っ子学びの地区」をリニューアルする</p> <p>2 新環境の活用に関連 3面からワークホープで対応した実践を推進し共有する。 1人1台端末による個別学習化した学びの授業に向け、授業での活用場面を想定して、 外部人材、学区がニーズを把握した実践を共有し共有する。</p> <p>3 新型コロナウイルスに負けないチーム力 児童のある学習内容でも、個人学習活動の展開を促進し、共有（Zoom等）し続ける。</p>	<p>1 新土小がコミュニティ創り 身に付けさせたい生活習慣を明確にした共の生活日課を、全職員が共通理解を深め、実践し改善を重ね、年間計画に位置付ける。</p> <p>2 新環境の活用に関連 児童意欲の改善に向け、授業中の振り返る機会を学年ごとに確保する。 多くの人が思いやり、感謝とつながる新授業に向け、今年度から「朝の挨拶」の大切さを伝える日々行う。</p> <p>3 新型コロナウイルスに負けないチーム力 「土っ子ワーク」の取組を1人1人が持つ生活でできるように、全職員が全児童へ日々の言葉かけを続ける。</p>	<p>1 新土小がコミュニティ創り 児童に身に付けさせたいことを明確にし、児童・保護者・生徒がそれぞれに向けて共創できる学校行事を企画推進する。</p> <p>2 新環境の活用に関連 オンラインも取り入れたハイブリッド型の学校の事を企画して、 広い学習で発見の場を創る。第4校舎の活用を促進し、児童の学びの場を拡張し実践している。</p> <p>3 新型コロナウイルスに負けないチーム力 学校行事全般においては、全職員が一人ひとりで役割を担い、協力を深めていく。</p>	<p>1 新土小がコミュニティ創り 新しい学習環境の心と体、心と体、心と体と長寿の工夫で、土小の体力向上を推進し、新しい学習環境の活用を推進する。</p> <p>2 新環境の活用に関連 1人1台端末を活用し、デジタルによる記録の活用と、多様な学習を可能とする。また、デジタル活用が促進されるため、環境や学習環境やICT活用が促進されるよう推進する。</p> <p>3 新型コロナウイルスに負けないチーム力 新しい生活様式を踏まえ、共通理解を深め、体力及び学習環境の向上に向けての取り組みを推進する。</p>
<p>目指す成果-効果</p>	<p>実践しながら修正し、みんなでつくりみんなが実践する2022年 年間指導計画の作成 実践しながら検証し、実効性のある、学校図書館GIGA&ICT+新教室活用マニュアルの作成 学校教育協議会に対して、全職員がコーディネーターネットワークの構築（コミュニティスクール）</p>		

2 今年度の重点方策

令和3年度の学校経営として、最も力を入れた点が目標の共有化である。本校の学校教育目標である「自ら学び 心豊かでたくましい土っ子の育成」は、平成21年度に設定された目標です。平成21年度は前学習指導要領の移行措置が始まった時で、基礎的基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスがキーワードとなっていました。昨年度より始まった現行の学習指導要領では、この2点は「実際の場面で生きて使える知識・技能」「未知のものに対応できる思考・判断・表現力」「学びに向かう力」と3点に整理されましたが、学校教育目標はこれに対応していると考えて、変更はしませんでした。

目指す児童像「かしこく、やさしく、たくましく」については、学校の公的な記録にはありませんが、子供たちにも口ずさまれている文言であるため、本年度より学校教育目標を受けた目指す姿として「かしこく、やさしく、たくましく、やり抜く子」とし、土っ子が21世紀の社会が目指す「Well-Beingな社会」を作り出す担い手となるために、賢く・優しく・逞しくという不易な言葉に加え、やり抜く、グリットする力（世界各国でも注目する力）を加えました。しかし、「かしこく やさしく たくましく やり抜く子」と掲げても人それぞれのイメージは異なり、それを共有するために、具体的に身に付けたい資質・能力として4月に職員全員で出し合って定めたものが①にある「卒業時に目指す姿」です。これを土小の教育活動を通じてつける具体的な9つの力として共有し、この実現に向けて学校・保護者・地域が一体となって取り組む学校づくりを目指して参りました。

この9つの目指す姿の実現に向けた重点方策は、②に3つの新として掲げたものです。さらにそれを学力向上、生徒指導・学校行事、体力向上としてさらに具体的手段として示したものが③となり、各教員の目標申告とも連動させた取組みとして行いました。

3 重点方策の現状（自己評価）

(1) 目標の共有について

目指す児童像についての教職員の取組み状況と保護者の認知度について調査をおこないました。この実現状況については、以下の表にしめす通り、教職員はほぼ意識していますが、保護者は8割程度の認識で、2回の評価の間で変化が見られませんでした。

目指す児童像を意識して教育活動を行っている				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答96%	3.20	肯定回答95%	3.14
保護者	肯定回答80%	2.88	肯定回答79%	2.88

このことから、卒業時に目指す姿の設定をした最初の年でもあり、学校だよりには毎回掲載するなどの広報・発信に努めましたが、目標を共有する（評価点 3.2 以上）には至りませんでした。コロナ禍により来校機会が1回しかなかったことや、学校からの情報発信に更なる工夫が必要であると認識し、次年度は学校の様子をよりよく伝えると共に、来校機会を確保することに努めたいと考えます。

(2) 学習の状況について（かしこく）

① 「新土小のカリキュラム創り」に関すること

ここでは、総合的な学習の時間を再構築をあげ、新しい学習指導要領に沿った土小学校のカリキュラムを整えることとしています。

これは、学習指導要領の総則に次のように記載されていることからです。『教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第5章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。』とされているに基づいています。

(1)に挙げた「卒業時に目指す姿」と共に、総合的な学習の時間との関連が重要視されていることから、総合的な学習の時間の再構築としています。

この実現状況については、以下の表にしめす通りです。

総合的な学習や生活科が地域と共有した学習内容になっている				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答72%	2.68	肯定回答86%	2.95
保護者	肯定回答68%	2.99	肯定回答77%	3.09
3年以上児童	肯定回答66%	2.76	肯定回答80%	2.96

総合的な学習の時間や生活科の学習を増尾地域に関連させて学べるように、学習単元の工夫改善を図ってきました。それは、学校独自の学習を組むことができる唯一の教科が総合的な学習の時間であるからです。その中で、課題を見つけ、解決策を考え、解決に向けた取り組みを行い、結果を振り返る、という課題解決型の学習を行い、実感のある学びとするためには、学習するフィールドを地域として、Well-Beingにつながる学習が大切だと考えているからです。実際に学区内を学習フィールドとした単元を実施した教員にその理解が深まり、子供たちも少しずつ実感をしていることが現れていると捉えています。

2022年度は、校内の研究として総合的な学習の時間と生活科に取り組むこととなりました。このことが今年度の成果であると捉えています。来年度の校内研究を通じて実現状況が改善されていくと考えています。

② 新環境の活用に挑戦に関すること

新しくリノベーションされた教室の特徴は3面ホワイトボードです。子供たちの考えを表したり、学習の足跡を残したり、様々な活用方法を工夫していくことをあげました。

また、GIGAスクール構想により配備されたICT機器を活用して、個別最適な学びの実現に向けて、活用を図っていくこととしました。

さらに、外部人材や学区のリソースを活用した実践を増やしていくこととしました。これらについての学校評価アンケート結果は以下のとおりです。

3面ホワイトボードを活用した実践を行っている				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答72%	2.84	肯定回答85%	3.16
保護者	肯定回答62%	3.21	肯定回答77%	3.23
3年以上児童	肯定回答92%	3.51	肯定回答96%	3.62

児童の評価から学習中に活用されていることがわかります。教職員の評価が他の比較して低い理由は、よりよい学習方法として活用できているか、質的な面に対するものであると考えます。ホワイトボードを活用して話し合いを見える化するなどの取り組みは、ビジネスシーンでよく見られる光景であります。

1人一台端末の活用について				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答80%	3.04	肯定回答91%	3.05
保護者	肯定回答84%	3.22	肯定回答88%	3.18
3年以上児童	肯定回答97%	3.78	肯定回答97%	3.70

児童の評価から活用されていることがわかります。教職員に問うている個別最適な学びや、保護者に問うている学習のツールとしての活用に向けては、今後の活用に向けてさらに工夫改善を行う必要があります。全国で実践されている好事例などに学び、よりよい使い方を模索していきます。

外部人材の活用や学区の環境を活かした教育活動について				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答80%	2.80	肯定回答81%	2.95
保護者	肯定回答67%	3.12	肯定回答70%	3.06
3年以上児童	肯定回答95%	3.53	肯定回答96%	3.53

児童の評価から外部人材活用が学習効果につながるということがわかります。保護者の“わからない”と回答する割合が26.6%から21.1%と5%程減少したことは、子供からの伝達や学校の広報が影響していると考えます。外部人材や地域資源の活用を年間計画に位置付けることにより、確実な教育的効果につなげていくことが大切だと考えています。

低学年の名戸ヶ谷ビオトープや増尾地域の事業所の協力を得た町探検は一定の成果が認められました。今後は教員の負担を軽減しながら教育活動を維持していけるように、地域の方々の学習支援を組織化していくことが課題です。中学年でも、逆井消防署の活用など実体験を伴う学習ができました。3年生の学区探検などは、生活科同様に学習支援組織を作っていくことが課題です。高学年は、手賀地域の様々な人々の支援による林間学校は大きな成果です。今後持続可能な形で計画の整備と人材の確保を行っていくことが課題となります。6年生は増尾スマイルアップと称した取組みで一定の成果を得ることができました。

これらの地域教材を教職員が知ることが大切だと考えています。次年度に向けて、地域の協力を得ながら、増尾地域の魅力や教材性を知るための、教職員向けマイクロツアー等を中学校とも協働して立ち上げ、地域の方々から学ぶ機会を作っていきたいと考えています。

④ 新型コロナに対応した学習活動の展開について

本年度はコロナウィルスの感染拡大による第5派（夏休みから9月）と第6波（3学期）に遭遇し、第5派では感染を警戒して登校を自粛する児童への対応、第6波では陽性となる児童の増加に加え、家族の感染も広がり濃厚接触により登校できなくなる児童の増加、さらに教職員の感染や濃厚接触等による出勤不能といった、最大の危機を迎えました。

一方で、GIGAスクール構想により整備された一人1台環境を利用したオンラインや発信型学習との組み合わせが実施された。

これらについての学校評価アンケート結果は以下のとおりです。

感染予防の制限のある中で新しい学習活動を模索している				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答 92%	3.08	肯定回答 100%	3.29
保護者	肯定回答 85%	3.28	肯定回答 84%	3.30
3年以上児童				

新型コロナ対応は感染リスクを0にした方法が無いために、感染を恐れた場合は取りやめしか方法はありません。予定した行事や学習活動を中止したものがありましたが、コロナ禍の終息が見込まれない中では、中止せずに実施をすることへの理解を求め、学習活動や学校行事の方法を見出していくことが今後の課題となっています。そのためには、子供の成育を中心にした価値観を元にして、職員間、学校と保護者や地域との間で合意形成を図れるようにしていくことが今後の課題です。

⑤ 学習状況に関する自由記述について

	「学習」に関するご意見等
1年	持久走をやってほしかった。
1年	毎日の宿題が多くて疲れていると感じた。
2年	オンラインをもう少し積極的に導入してほしい。今は欠席の場合は基本的には参加しないという方針のようだが、今だからこそ、そんなに具合が悪くなくても大事をとってお休みさせることも多いと思う。連絡なしに繋がるようにしておいてもらえるとたすかる。 英語教育をもう少し積極的にしてほしい。
2年	タブレット学習についての管理がなされていない様に感じる。 学習の為のタブレットが遊びに使われているのが現状だ。 1人1台配布するのであれば、タブレットで学習以外のアプリを削除するなど、定期的に回収して管理するなど、徹底してもらいたい。
2年	第6波に備えてもっとiPadを活用してほしい。今何の為に持ち帰ってるのかよくわからない。
2年	タブレット学習についての管理がなされていない様に感じる。 学習の為のタブレットが遊びに使われているのが現状だ。 1人1台配布するのであれば、タブレットで学習以外のアプリを削除するなど、定期的に回収して管理するなど、徹底してもらいたい。
2年	2年生の町たんけんは、とても良い経験だったようで、家でも話をしてくれたり、町探検に行ったお店での問題を出してくれたりしました。 車で出かけるたび、ここも〇〇ちゃんが町たんけんに行ったところだよ！と教えてくれます。 町たんけんは、今後も続けて欲しいと思います。
3年	キーボー島など、オンライン学習が出来るのは良いと思う反面、オンライン学習の時間が長くなることにより視力への健康への影響などの懸念もあります。
3年	かつては、対面・児童全員への画一的な授業しかできなかったと思いますが、今はタブレット等を活用した学びの場があり、指導方法多様化の可能性が大いにあります。 そのような背景では、授業を進める中で、分からない子に焦点・標準を絞るよりも、段階別、学習進度別の授業に舵をきることも検討されるかと思っています。 学習意欲の低下は、授業内容が分からなかったりつまらないだけではなく、分かっている内容なのに、授業の進度が遅くて、結果的に学習意欲の低下につながる面もあろうかと思っています。 今後の授業方針に付きましては、実験的試みも含め、多面的なご検討をお願い致します。(地域の方による授業、教育系 You Tube の活用など)

	それにより、教師の皆さまの授業負担が減ることで、イジメ問題をはじめとした生活指導により時間を割いていただけるかと期待致します。
3年	いつも温かく見守ってくださりありがとうございます。
5年	お世話になっております。 端末を連絡帳替わりにするのはよいのですが、先生方の使い方を統一しマニュアルを作成して、我々に周知させてほしいです。 先生によって、下校時に連絡し忘れた事を下校後に更新される事があります。 先生にとっては小さな事ですが、子供はスマホのように端末を気にして夜でも見えています。 落ち着かないので、更新はやめてほしいと思います。 先生方に、忘れてもまた更新すればよい的な考えがおありならば、子供にこめしがつかないように感じます。
5年	テストの答えを見たと言われ再テストだったようで、子供は見えていないとは言っていたが、疑われる行動をしていたのか分からないので、そういう時は情報共有したいと思う。
6年	端末に加え学習教材を持って行き、学習は充実したように思いますが、以前より荷物が増えて重たく大変なようです。 端末の良さを活かし、荷物が少し減れば楽かなと思います。
6年	端末の使い方について、みんな良く理解できてる様に感じます。ただ授業に関係ない動画を見たり、その為時間を守れなかったり等、そもそも使う以前のルールが守られていない様に思います。 皆が高いスキルを身につけていて凄いと感じますが、まずは使う上でのルールを守ることが先決かと思いました。
6年	パソコンが導入されてから、新しいことに興味をもち、調べ、まとめることに意欲的になっているように感じます。
6年	PCのスキルが上がっていて驚くほどです。 PCで行う漢字ドリルをみましたが、あまり効率でなく、漢字は紙だけでいいと思いました。 英語の授業が楽しく無いらしくいつも不満を言っています。先生は、なるべく日本語を使わないほうがよいのでは。和訳はなるべくせず、英語のまま理解させることがまだ小学生ならば可能かと思うので、日本語を多用する授業はもったいないと思います。
6年	端末の使い方について、みんな良く理解できてる様に感じます。ただ授業に関係ない動画を見たり、その為時間を守れなかったり等、そもそも使う以前のルールが守られていない様に思います。 皆が高いスキルを身につけていて凄いと感じますが、まずは使う上でのルールを守ることが先決かと思いました。

⑥ 自由記述に対して

GIGA スクールによって配備された端末に関するものも多く見られました。ネットを利用するために生じる危険性、ゲーム等への依存の問題など、端末をめぐる負の心配は多くあります。一方でネット環境や端末を使わずに今後の生活や仕事を維持することは絶対にできないと言える状況まで来ています。子供たちに対しては、端末の利用を通じてその良さを十分に感じてもらい、小学校の段階ではある程度の使い方をマスターできることと、よりよく利用していくためには負を克服していく自制心を養うことも大切なことだと考えています。従って、禁止ではなく、失敗したり間違ったりしたりしながらもよりよい使い方を見出していく形になるよう、情報モラル等の学習に力を入れて参ります。

(3) 生徒指導について (やさしく)

① 生活目標等の実施について

学級経営、学校行事等を視野にし、全校朝会で毎月のキーワードを示しました。また生活目標については子供たちに意識できるような話が行われ、それを保護者にも伝えるようにHPに掲載をしました。

生活目標を意識した指導や生活をしている				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答88%	2.96	肯定回答91%	3.10
保護者	肯定回答72%	3.15	肯定回答88%	3.11
3年以上児童	肯定回答76%	2.99	肯定回答74%	2.60

子供たちが意識して生活を行えていないことが明らかとなりました。保護者の42%はわからないと回答しています。教職員の10%が肯定的な回答ではないことから、月ごとの生活目標の在り方についても問い直しが必要だと考え、来年度に向けて目標の在り方を検討してまいります。

② 解放型の校舎利用

開放型の校舎となり周囲に配慮した指導をしている				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答100%	3.16	肯定回答95%	3.10
保護者				
3年以上児童	肯定回答77%	3.02	肯定回答85%	3.00

開放型の校舎利用については、廊下移動等の様子から子供たちは他者への迷惑を考えて行動できるようになってきたと考えています。引き続き土小のスタンダードとしていけるよう指導してまいります。

③ 多様な人との関わり合い

コロナ禍ですが、外部人材の活用や地域の施設等の積極的な利用を心がけてきました。

校内外の多様な人との関わりを大切にした指導				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答88%	3.00	肯定回答95%	3.10
保護者	肯定回答64%	3.07	肯定回答65%	3.05
3年以上児童			肯定回答95%	3.53

水泳指導の中でライフセービング協会や柏洋スイマーズの支援、県の職業能力開発協会、税理士や弁護士など専門家を招いて学習する機会を設けてきました。このことは子供たちの学習効果と授業の質を高めつつ教員はコーディネイト役に回るといよいよ形での働き方改革にもつながります。今後も増尾地域などの人材にも協力いただきながらよりよい教育活動ができるように調整をし、コミュニティ・スクールの機能も活用できるようにしていきたいと考えています。

④ 土っ子エイトの約束

感染予防の約束を守って生活できるようにした指導				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答100%	3.16	肯定回答100%	3.33
保護者	肯定回答73%	3.08	肯定回答71%	3.06
3年以上児童	肯定回答78%	3.04	肯定回答80%	2.75

感染状況が長期化する中で、子供たちの感染対策意識が下がってきていることが課題です。給食前の手洗いの歌を途中で変更したり、黙食を確実に実施するために読み聞かせボランティアによる給食時間の読み聞かせを日常化したりと、感染対策を講じてきていますが今後の継続的に子供たちが意識して取り組めるよう、約束の中身を検討していくことも課題となります。

⑤ いじめ対策や問題行動について

いじめを許さないという毅然とした姿勢で対応することと、問題行動については管理職を含めて学年全体で取り組む姿勢で臨んできました。

問題行動やいじめ等の課題に対して速やかに対応していると思いますか				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答 100%	3. 16	肯定回答 100%	3. 43
教職員	肯定回答 96%	3. 40	肯定回答 95%	3. 29
保護者	肯定回答 68%	3. 24	肯定回答 78%	3. 05
3年以上児童	肯定回答 89%	3. 39	肯定回答 89%	3. 24

いじめを許さないという姿勢は学校として基本的な構えとしています。問題行動が起きることは当然のことだと受け止め、それが長期化したり慢性化したりしないように対応できることが、学校として重要なことだと考えています。保護者と学校とが情報を正しく共有し、子供を真ん中に据えて話し合い、そして解決していけるように今後も努力を重ねて参ります。

⑥ 生活に関する自由記述

	「生活」に関するご意見等
1年	トイレに上履きで入って教室に戻りますよね。床に座ったり手をついている子がいるのが気になります。
2年	昨今、教職員による様々なセクハラやパワハラ等が頻繁にニュースで報道されている。他人事ではなく、いつ我が子にも危害が及ぶか分からない状態での学校生活は非常に不安であるが致し方ない。もっと保護者が安心して子供を預けられる学校を目指して欲しい。
2年	学校に訪問する機会がある時、(例えばPTAの行事に参加する等)職員室に寄って検温と名簿記入をする人とならない人と分かれています。 やるに越した事はないですが、強制もできないので、あやふやになってしまっているな、と思いました。
3年	今まで自宅では端末をあまり使用させておらず、学校から支給される様になってから使い方はじめました。 宿題や復習を端末で取り組む際にすごく目がショボショボして疲れると言いはじめました。夕方になると目が過度に疲れる様で目がとても充血する様になりました。 今の時代、幼少期から端末に触れ、慣れる事も必要と理解しておりますが、長時間使用で視力の心配もあります。 宿題や予習に使用しているのもうやめなさい！と言うのも中学年では、どれくらいの使用時間が適切なのでしょうか？
3年	先生のお蔭で仲間外れが終わり仲良くなれたので大変感謝しております。 千葉県いじめ条例の様なチラシを度々持ち帰りますが、いじめの子とは即座に引き離すという内容は全く実行されていないという事が2,3回ありました。いじめられた子は悩んでいても、恐らく先生からご覧になっていじめの範疇とは感じられなかったからなのではと憶測していますが、実際の所はどうだったのか、と考えてしまう時が未だにあります。

3年	当該設問に付きまして、「職員は～」からはじまっておりますので、正直「思わない」を選択いたしました。これが「校長先生・教頭先生」となっておりますら、「そう思う」にチェックを致しました。 校長先生、教頭先生が先頭にたつて範をお示しになられていることが、とても土小の誇らしいところだと感じております。 いつも交差点でのエンパトさんとの見守り、ありがとうございます。 問題行動・イジメへの対応ですが、加害児童へはもとより、その保護者への指導もぜひよろしくお願い致します。 子供を変えることは親の態度やその子への対応が変わることでしか変えることが出来ません。だからこそ、学校には、保護者と正面から向き合っていたきたいと、切に願います。今ならまだ救える子がいるはずです。
4年	PCを持ち帰るようになりランドセルが重く、肩が痛いと訴えることが増え、成長期にとっても心配です。常時6キロ以上、ひどいとき9キロです。下校後、玄関で倒れ込んでいます。 PCを持ち帰るならば全ての教科書を学校においててもよいなど、配慮をしていただきたいです。先生方も時々子供たちの荷物を代わりに持ってきていただきたいです。親の私たちの時代より随分重くてびっくりしてしまいます。
4年	4年生になり、子供間のトラブルが増えてきている年頃になってきているように思います。 なかなか先生に相談する機会が少なく、学校での対応もわからないのでなにかご相談する機会があれば…と思います。
5年	クラスルームのコメント欄は昨今のいじめ問題にも繋がり、意味のない内容が多いので、「見ました」のコメントなど必要ないでしょう先生含めコメントできないようにした方がいいと思います。 まだ小学生は言葉の選択がうまくできないので、誤解からいじめに発展するよう感じます。 端末を学習に使うのは賛成ですが、コミュニケーションツールとして使うには未熟な年齢だと思っています。
6年	音楽のマウスピースを使った学習は本人が戸惑ってました。 担任の先生に配慮していただいたようで、ありがとうございました。
6年	今年は休校にならずに、2学期を終えようとしていることで生活のリズムが以前に近づいていることは、生活指導のおかげだと思います。このまま学校生活が続くことを願っています。
6年	毎日荷物が重くて体の不調を訴えています。6年なので、4年の弟よりははまだ耐えれていますが。

⑦ 自由記述欄について

生活指導に関する内容については、保護者の皆様との懇談会の設定が1回しかできず十分な意思疎通につながらなかった面を反省しています。次年度からはコロナ禍の状況がどうであれ感染リスク軽減措置を行った上で、できるだけ保護者の来校や面談等の機会を確保して、子供について情報交換や共有の時間を確保できるようにしてまいりたいと考えています。

(4) 学校行事の持ち方等について

① 身に付けたい力を明確にした学校行事

学校行事や学習活動の際には、9つの資質・能力と関連させて企画運営を行い、

児童・保護者・学校が目標を共有できるように意識して学校行事を企画・運営している。				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答88%	3.04	肯定回答90%	2.95
保護者	肯定回答75%	3.03	肯定回答73%	2.98
3年以上児童	肯定回答94%	3.67	肯定回答95%	3.57

学校行事と資質・能力を関連させていくという考え方を浸透させていくためには時間が必要で
す。コロナ禍で行事が実施できない際に、「思い出づくりができなかった」といった報道がされ

ていますが、思い出を作るために行事があるわけではありません。行事を通じて育む資質・能力があり、学校としてはそれを意識した指導計画を立てていかなければなりません。学校行事のねらいと育む資質・能力を意識するようにと教職員の意識が少しずつ変化しています。保護者や地域の方々にも理解して支援していただけるよう、来年度以降の取組みの課題となります。

② オンラインを取り入れたハイブリット型学校行事

学校行事や学習活動の中に、オンラインを使つての広報やオンラインを利用した見学などを取り入れて、感染対策を講じながら教育活動が維持できるように工夫をしてきました。

感染症予防やGIGAスクール構想により、オンラインの学校行事を推進している				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答88%	3. 28	肯定回答95%	3. 43
保護者	肯定回答63%	2. 99	肯定回答88%	3. 02
3年以上児童	肯定回答89%	3. 41	肯定回答92%	3. 33

オンラインの見学を取り入れて、校外学習よりも質的に高くなった面もあり、オンラインを利用した新たな学習活動の良さを感じることができました。運動会や卒業式などオンラインで行ったりオンライン併用型で行ったりすることで、子供たちにはつきたい力に繋がる学習活動を維持し、保護者には実際の姿を見る機会とならず一部に不満を生じさせる可能性もありますが、全く見ることができないことは避けながら、よりよい行事のあり方を保護者も含めて考えていくことが課題だと考えます。

また、教育活動は対面での実施が最も効果的であることも、オンラインの活用により明らかになってきており、保護者の方々にも理解をしてもらいながら対面での活動をベースとしたオンラインの効果的な活用について模索していくことが更なる課題と考えます。

(5) 体育運動面について (たくましく)

① 体力向上について

発達段階に応じた体力及び健康意識の向上				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答86%	3. 12	肯定回答91%	3. 14
保護者	肯定回答%		肯定回答49%	2. 92
3年以上児童	肯定回答80%	3. 30	肯定回答82%	3. 26

教職員は体力向上に向けた取組みを行っていますが、保護者の半数はわからないと回答しており、具体的な内容は伝わっていないと思われます。子供たちの運動は好きかという問いに対しても8割程度で留まっているため、コロナ禍における運動の在り方を考えていかなければなりません。今年は、体づくり運動に力を入れて、スポーツクラブの外部人材を活用したり、体育主任会で提案授業を行ったりするなどの努力をしてきましたので、その成果を来年度に活かしていきたいと考えます。

② GIGA環境を使った運動や体育について

1人1台端末を活用したデジタルによる記録の蓄積と技能の習得をサポート				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答76%	2.92	肯定回答86%	3.10
保護者	肯定回答20%	2.50	肯定回答25%	2.66
3年以上児童	肯定回答66%	2.94	肯定回答83%	3.11

保護者には伝わりにくい内容であるが、体育の授業においても一人1台の環境を使って取組みがなされていることが、教職員と児童の結果から見とることができます。体育の授業でも活用をしていることは大変良いことですので、さらに活用が広がるように実践の共有化などを進めていきたいと考えます。

③ マスク着用などについて

マスクの着用や換気に対応した服装、過ごし方を自分で判断できるよう指導している。				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答100%	3.24	肯定回答95%	3.33
保護者	肯定回答76%	3.03	肯定回答76%	3.09
3年以上児童	肯定回答90%	3.39	肯定回答93%	3.47

マスクの着脱や服装など状況に合わせて自分で調節しながら生活ができるよう、言葉がけを行ったりして考えて行動できるようにしてきました。子供たちの様子からは、自律した行動がとれるようになってきているようですが、さらに継続した指導が必要だと思えます。

④ 食に関する指導について

食に関する指導について、栄養士と連携して計画的に実施している。				
	1学期末		2学期末	
教職員	肯定回答96%	3.12	肯定回答86%	3.16
保護者	肯定回答69%	3.13	肯定回答63%	3.04
3年以上児童	肯定回答88%	3.38	肯定回答91%	3.28

高学年の家庭科の学習で取組むなど以外に、今年はペロリンピックに給食委員会を中心とした取組みを行いました。よく考えて食べたで賞という賞を市長からいただき、児童用図書費も5万円いただきました。デジタル委員会の給食献立の紹介も食材について調べた内容を取り入れるなど、食に関する関心の高まりを感じています。

⑤ 健康に関する自由記述

	「健康」に関するご意見等
1年	体育の授業を増やしてほしい。
1年	「こうなさい」ではなく、「こういう理由があるからこうなさい」と教えてくれていると思います。一年生がみんな黙食の理由をちゃんと知っていてすごいなと思った。
3年	運動能力の低下は、以前に比べて土小の校庭の遊具が減ってしまったのも影響している気がします。

3年	子どもたちの怪我の発生が多い、と子供から聞きました。 私達保護者が休日などで外で活発に遊ばせてあげられなかったのがその一因かと思います。 一方で、校舎の工事後、校庭遊具が減ったことにより、様々な体を動かす機会が無くなったことも、また一因のような気がします。 可能であれば、体幹を鍛えるのに適したアスレチック系の遊具の導入を望みます。
4年	給食はきちんと食べてきますが、家での食事は残しがちで、どうにか食べてもらおうと工夫しています。
5年	運動は常に行っていますがコロナの休校が長かったので疲れやすくなっているように感じます。
6年	体の健康について対応も大切ですが、 心の健康についても子ども達・先生方・保護者の3者に向けて積極的に取り組んで頂ければ幸いです。
6年	換気と寒さ対策を考え、「防寒対策」のお知らせをしていただいた事がよかったです。
6年	運動会などの行事が縮小され、カラダを動かすことが減ったように感じている。家庭でも意識して関わりたい。
6年	給食の話を良くしてくれます。とても美味しいみたいで、献立表に載せてあるレシピを家でも作っています。ありがとうございます。

コロナ禍の影響により、運動面、心理面に対する影響が今後の生活に響かないように配慮した教育活動を心がけてきました。大規模改修により遊具が減少したことなども伴い、子供たちの運動機会の確保、環境の整備については、

(6) 開かれた学校づくりについて

学校だよりで教育方針や児童の様子を積極的に知らせている。				
		1学期末		2学期末
教職員	肯定回答 100%	3. 28	肯定回答 90%	3. 25
保護者	肯定回答 90%	3. 15	肯定回答 87%	3. 01

学年だよりで教育方針や児童の様子を積極的に知らせている。				
		1学期末		2学期末
教職員	肯定回答 96%	3. 16	肯定回答 86%	3. 25
保護者	肯定回答 91%	3. 18	肯定回答 87%	3. 05

HPで教育方針や児童の様子を積極的に知らせている。				
		1学期末		2学期末
教職員	肯定回答 100%	3. 52	肯定回答 91%	3. 45
保護者	肯定回答 92%	3. 18	肯定回答 86%	3. 08

すくすくメールでの連絡。				
		1学期末		2学期末
教職員	肯定回答 96%	3. 24	肯定回答 100%	3. 24
保護者	肯定回答 97%	3. 42	肯定回答 98%	3. 29

本校の職員は話しやすい。				
		1学期末		2学期末
対教職員	肯定回答 83%	3. 22	肯定回答 75%	3. 13

対管理職	肯定回答 63%	3. 12	肯定回答 61%	3. 01
------	----------	-------	----------	-------

校長室だよりを読んでいる			
	1 学期末		2 学期末
保護者	肯定回答 89%		肯定回答 83%

	「情報発信」に関するご意見等
1 年	百年桜をカラーに印刷してプリントする必要はないと思う。ネットで閲覧できた方が写真も見やすくよい。
1 年	どれだけ Web やお便りの文字を見てもわからなかった子供達の様子ですが、授業参観一回で教室の雰囲気がわかりました。
2 年	学年頼りや配布物は学年ごとにホームページに載せて欲しい。 特に低学年は大事な手紙でも持ち帰らなかつたり無くしたり等あるので。 なんなら紙で配らなくてもいい。
2 年	連絡帳での担任教諭とのやり取りで、質問した内容と違う返答が多々ある。 また、タブレットに連絡する内容と連絡帳に記載する内容に相違があり子供に聞いても分からないとの返答が多々ある。
2 年	校長だよりは、いつも楽しみに読んでいます。 天体観測の情報は、自分では調べたりする事が無いので、校長先生から受け取っていると言っても過言ではないです。
3 年	いじめや問題を起こしている親がどの程度問題を我が事として捉え、またどの程度把握しているのか疑問に感じる事が多い。
3 年	ホームページ、校長だより、すすすくメールにより、コロナ禍での土小の雰囲気を感じることができています。ありがとうございます。
4 年	子供同士のちょっとしたトラブルに関して、先生がしっかりと把握し、状況をお電話で伝えてくださいました。お忙しいのにとでも丁寧にあたたかく対応してくださり、感謝しています。
5 年	見守り時に話題が増えるので、自分の学年だけでなく、他学年の行事日程も知らせて頂きたいです。
5 年	連絡帳、使ってないですよ
6 年	校長室だよりをこまめに発信していただき、また、ホームページを見ると、こども達の様子がよくわかりありがたいです。
6 年	○学校だより「百年桜」について、カラー両面印刷のポスターのような立派な仕様にする必要があるのかどうかは疑問に感じる。 ○12月3日の教育ミニ集会は、告知プリント(裏面が FAX 用紙のもの)の内容がわかりにくく、一般の保護者が参加しているものかどうか戸惑う声も聞いた。写真を配したチラシは会場入り口で始めて目にしたが、雰囲気がよく伝わったと思った。参加してみて楽しかったし、学校の目指していることもよくわかったので、「普通の保護者」の参加がもっとあれば残念に思った。ボリュームもあり大変かもしれないが、参加できなかった人へも、実施内容についての報告があったらありがたい。
6 年	校長室だよりが定期的にメール配信され、学校の様子が身近に感じられて良いと思います。

情報発信についてご意見をありがとうございました。

個々の内容にお答えができませんが、次年度より学校運営協議会という新しい仕組みを設けて、コミュニティ・スクールという形に変えていくことを検討しております。

コミュニティ・スクールとは、校長と学校運営協議会委員とが共に学校経営を行っているく、「地域と共にある学校」を目指した改革となります。

そういう点からも学校の様子を地域に伝えたり、教育ミニ集会を開いてお互いが話し合う場を設けたりと今までに無い工夫をしております。百年桜のカラー版については1学期にもご意見をいただきましたが、校内印刷よりも安価なものを利用し、少しでも地域回覧の中で目にとめていただけるよう工夫をしております。

学校と地域が一体となった取組みができますよう、今後も情報の発信や受け止めについて力を入れていきたいと考えております。

	「地域・保護者連携」に関するご意見等
1年	以前にお話しさせてもらったことのある先生のことは、どんな人柄なのかなんとなくわかりますが、コロナ禍でほとんど話したことがない先生に何かを相談しようとはあまり思えません。
1年	来校した際に先生と目が合ったにも関わらず、こちらが挨拶しないとしてこなかった。
2年	地域の方や来校者が必ずしも安心とは限らない。 挨拶する事は非常に良い事だか、警戒心を持つことも教育に取り組んで頂きたい。
3年	管理職以外の先生方はお忙しいようで、学校からは気軽に相談して下さいと発信されて来るが、実際は、忙しいのに申し訳ないと保護者として感じてしまう事が多い。
3年	設問に答えて感じましたが、管理職の先生と、一般の職員の方との間に、接遇その他諸々の面で大きな違いを感じるがありました。その差があることで、何度か失望したことがあるのは事実です。
6年	困った事があれば、すぐに先生に相談させていただいております。 忙しい中、対応してくださり感謝しかありません。
6年	都合により参加できなかったが、12/3の地域と学校の交流をする会のような試みが広がるのは良いと思います。

	「その他」に関するご意見等
2年	行事予定や家庭で用意するものなどに関しては紙でいただけると助かります。
2年	校長室だよりが開かなくなってしまいました。 見れない時の対策があるなら、メール配信でもいいと思います。
2年	学級通信や年間行事予定表、回答が必要な手紙については今まで通り手紙での配信をお願いしたいが、学級費など案内のお手紙はメール配信でもいいかと思います。
2年	メール配信も良いと思うのですが、全部がメール配信ではなく、大事なお知らせは紙と手紙でのお知らせがあるといいなと思います。
3年	広報紙もホームページで掲載する事により、紙、費用も削減されると思います。
3年	どんどんペーパーレス化されたり、スピード感を感じとても素晴らしいと思います。ピンクコースの元セブンイレブンの脇道によりやく歩道が出来たり、大変感謝しております。
3年	校長先生の取り組み、本当に素晴らしいと感じております。 その思いが土小全体に広がるよう、心から期待しております。 私達保護者が出来ることがありましたら、協力したいと思っておりますので、ぜひお声がけくださいませ。
4年	給食の献立、学年だよりは紙でまだほしいです。それ以外はメールでもいいかもしれません。
5年	学級通信や年間行事予定表、回答が必要な手紙については今まで通り手紙での配信をお願いしたいが、学級費など案内のお手紙はメール配信でもいいかと思います。
6年	内容によります。
6年	「その他」を選んでいないけれども、プリントを持ち帰ることで、子供もどんな活動があるかなど「なんとなく知る」ことがあったが、すべてメール配信のみとなると、子供が知るきっかけがなくなるのかな…と思う。メール配信化には賛成だし、これは主要な話ではないが。

6年	アンケート全般への意見です。保護者の意見を吸い上げようとしてくれるのは有り難いですが、質問が詳細すぎて良くわかりません。ずっと学校生活を見ている訳ではないので詳細すぎて、回答はボヤけると思いますがもう少し大きくなり、アンケート取って頂いた方がお互いに活かせるアンケートになると思います。あと、アンケートとしている限りは無記名でもいいのかと思いました
6年	メール配信も良いと思うのですが、全部がメール配信ではなく、大事なお知らせは紙と手紙でのお知らせがあるといいなと思います。

ご意見をありがとうございました。つながる連絡システムの導入により LINE システムを使ったペーパーレス化を進めて参りたいと考えております。一部紙媒体が好ましいものは印刷配送を続けていきますが、状況に応じた対応をしていきたいと考えております。コミュニティー・スクールへの移行により、保護者や地域の方々と一緒に教育活動を行う機会を増やし、学校を核とした学びが様々な形で生まれるように、今後 10 年を見据えた改善を進めて参りますのでよろしくをお願いします。

4 「4つのC」に関する取組（自己評価）

「4つのC」については、卒業時に目指す姿と次のように関連させて設定しました。

- 【見通す力 Concept から振り返り】 学んだことを、生活や社会の中で活かせる
- 【挑戦する力 Challenge から 粘り強さ】 問題や課題の解決に、粘り強く取り組む
- 【関わり合う力 Communication から協働】 異年齢の人と積極的に関わり、困っている人を助ける
- 【自律する力 Control から自己肯定】 自分で目標を持ち、調整しながら進み続ける

(1) 【見通す力 Concept から振り返り】 学んだことを、生活や社会の中で活かせる

卒業時に身に付けさせたい資質・能力としてこの項目を選んで目標申告を行った教員は、11名であり、多くの教職員が自らの目標申告と連動させて、実現に向けた実践としている。

このことについては、学校経営の柱となる校内研究主題を「学びを活かせる子を目指して ～多様な学びの選択肢を通して～」と設定して取り組みを強化しました。

単元の見通しをもって子供たちが学習に取り組めるよう、見通しの持たせ方や単元目標の共有について研究を行うことができました。その結果、見通しをもった単元づくりが様々な教科で実現できるようになったこと、教師と児童の間で、学び方や学習の流れが共有できるようになったことにより、振り返ることが習慣化されてきました。一人一台端末を利用して、学習のまとめを書く習慣が位置付けられ、見通しと振り返りについて、一定の成果を見出すことができました。

柏市の生活実態調査からも「振り返り」の項目については、次のような結果となっている。

	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校	2.99	3.31	3.15	2.88	2.60	3.07	3.05
柏市	2.90	3.06	2.91	2.78	2.81	2.94	2.92

柏市と比較して、本校の実態の方が平均値が高く、意識して学習や生活に取り組めたと考えています。

(2) 【挑戦する力 Challenge から 粘り強さ】 問題や課題の解決に、粘り強く取り組む

卒業時に身に付けさせたい資質・能力としてこの項目を選んで目標申告を行った教員は、10名であり、多くの教職員が自らの目標申告と連動させて、実現に向けた実践としています。

コロナ禍においてチャレンジする機会が失われつつあるが、総合的な学習の時間、生活科等において自ら課題を持ち、その解決に向けて取り組む単元づくりに取り組んだ所で効果が見られます。

低学年生活科では「名戸ヶ谷ビオトープを活用した自然体験学習」を春と秋に行いその違いを学び

に結び付け、2年生生活科では学区内32事業所をグループごとに訪ねて学習する「学区探検・すてきをみつけよう」に取組み、課題に取り組む姿勢を育んできました。

3年生では社会科スーパーマーケットの学習から自分たちが考える未来のマーケット、4年生では地域防災を考えたり千葉県のおすすめ地域を紹介する「千葉県大使になろう」に取り組んだりし、課題に取り組む姿勢を育んできました。

5年生では、林間学校において手賀沼周辺の自然体験を充実させコース別学習メニューに取り組んだり、6年生では、土地域の人々に喜んでもらいたいとの願いを元に一人一人の子供たちが考えた取組みを、実際に実現化を図る取組みを行ったり、地域と一体となって取り組むことにより、粘り強く課題に取り組む姿勢を育んできました。

柏市の生活実態調査からも「粘り強さ」の項目については、次のような結果となっています。

	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校	3.31	3.57	3.45	3.2	3.01	3.31	3.29
柏市	3.17	3.37	3.27	3.19	3.13	3.04	3.01

柏市と比較して、本校の実態の方が平均値が高く、どの学年においても約0.2P上回っていることは、意識して学習や生活に取り組めた成果であると考えています。

- (3) 【関わり合う力 Communication から協働】 異年齢の人と積極的に関わり、困っている人を助ける卒業時に身に付けさせたい資質・能力としてこの項目を選んで目標申告を行った教職員は、1名であり、教職員が自らの目標申告と連動させて、実現に向けて努力した実践ではありませんでした。

学校としては、土っ子学級と称する縦割りグループを構成し、休み時間に集団遊びを行い異年齢集団での活動の中で、それぞれの発達段階における関わり方を育もうとしました。また、学習において外部人材を活用し、様々な人から学ぶ機会を多く設けるように工夫をしてきました。

一方で、コロナ禍による制限が多く発生し、十分な関わりを持てるまでに充実しなかったという実態があります。

柏市の生活実態調査からも「協働」の項目については、次のような結果となっています。

	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校	3.40	3.64	3.61	3.36	3.14	3.38	3.30
柏市	3.33	3.52	3.46	3.35	3.30	3.24	3.14

柏市と比較して、本校の実態の方が平均値が高く、どの学年においても上回っていることは、意識して学習や生活に取り組めた成果であると考えています。

- (4) 【自律する力 Control から自己肯定】 自分で目標を持ち、調整しながら進み続ける卒業時に身に付けさせたい資質・能力としてこの項目を選んで目標申告を行った教職員は、12名であり、教職員が自らの目標申告と連動させて、実現に向けて努力した実践でした。

本項目は(1)の振り返りとの関連を強くした実践が行われていました。4つのCの項目からは、No8の主体性とNo7の自己肯定感を合わせた形で設定をしています。これは学習の中で目標の共有を子供たちも含めてしっかりと行い、単元全体の学習の流れを共有した上で、子供自身が「なりたい自分」や「身に付ける力」を意識して取組み、学びに向かう力に通じる調整しながら目指す姿に向けて学習を進めていくよう、単元づくりを工夫した取組みを行ってきました。

学習計画を教室に掲示したり、classroomで確認ができるようにしたり、単元全体を見通して目標を持ち、振り返りを行えるような工夫改善が多く図られました。

柏市の生活実態調査からも「主体性・自己肯定」の項目については、次のような結果となっています。

主体性	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
-----	----	----	----	----	----	----	----

本校	3.34	3.62	3.45	3.45	3.26	3.09	3.19
柏市	3.29	3.43	3.42	3.36	3.36	3.11	3.05
自己肯定	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
本校	3.10	3.36	3.30	3.26	2.92	3.05	2.70
柏市	2.91	3.21	3.12	2.95	2.89	2.71	2.57

柏市と比較して、本校の実態の方が平均値が高い傾向が見られます。主体性については4年と5年で市の平均を下回っていますが、その他では、上回っていることは、意識して学習や生活に取り組めた成果であると考えています。

5 学校関係者評価 【評価日 令和4年2月24日】

(1) 目標の共有について

① 評価結果

- ・目標共有のプロセスはよい。
- ・目標及びブランドデザインはわかりやすい内容で「卒業時に目指す姿」によって6年間の営みが読み取れる。
- ・新年度より本格的にスタートするであろうコミュニティ・スクールに向けた地域との関わりを意識した取組は、子供にも大変刺激があったようで今後もそのような実践を通じた取り組みを続けて欲しい。

② 改善点

- ・土小の昔からの部分が微妙に変わってきている。あまり地域制にこだわらなくなっていくのでしょうか。あたらしい風が吹いていいのかもしれません。
- ・児童に学んで欲しいことに対して、学校が保護者や地域の人たちにどんなことをして欲しいのかをもっとアピールしてもらいたい。
- ・目標を共有するために「保護者・地域へのお願い」があるとよい。
- ・学校や地域や保護者にこんな事をする、したい、を具体的に説明し、できる事を共有し関わってもらおうとよい。
- ・近くに豊かな自然が多くあるので、活用していただきたい。
- ・学校・地域・家庭が目標を合意形成できる場を設ければ、教育目標を共有して子どもと関わり、教育効果が上がるのではないかと。学校教育目標をより広く周知するために学年だよりなど保護者が目にするものに載せてもよいのでは。

教員が学校や校種の枠を超えて地域と共につながってほしい。例えば国語の書くことが課題ならば小中で書くことを目標として地域の方も含めて有効な手立てを考えれば、目標を共有できるだけでなく、学校と地域の連携も深まる。

(2) 学習の状況について

① 評価結果

- ・タブレット等の指導の大変さを感じるが、今の時代に合う学習法になりつつある。
- ・PC が必修となっていく時代において、全ての児童が扱うことができるようになったことが素晴らしい。
- ・GIGA の活用が推進されている。
- ・全国学力学習状況調査の結果を中学校と共有できたことは、連続した指導に活かせる。
- ・総合的な学習の時間をはじめとするカリキュラム、3面ボード、端末、地域人材の活用などの環境に先生方の工夫や努力が読み取れる。
- ・学習の様子が児童の評価として表れている。
- ・国語・算数ともに記述式の問題解決に課題がある。特に国語が低い。算数も学んだことを活かさき

れていない。学んだことを別の学習や生活に生かせるようするのが土っ子の目標。それに向けた指導の手立てを考えることが重要だと捉えている。

- ・オンラインでの授業参加は保護者の意識も重要。とりあえずオンラインでつながればいい、とか学校はいつでもオンラインをやってくれる、考えている保護者がいる。オンラインでの授業参加はやむを得ないとき、原則登校して授業を受けることと、オンラインは限界があることを保護者に改めて意識させたほうが良い。

② 改善点

- ・保護者からはつきっきりで見とける必要があるという苦勞話を聞くのでそれへの対応。
- ・PC 活用に重点を置きすぎることなく、「鉛筆をもって書く力」や読書をしたり、人と人のつながり、コミュニケーションを十分とれる力も身に付ける学習も大切にしてもらいたい。
- ・タブレットの扱い方については気を付けてもらいたい。体の傷は治せますが、心の傷は難しい。
- ・タブレットに関する自由記述意見が多いようだが、試行錯誤の段階でより良い活用ができることを望む。
- ・現状はまだ端末を配布してつないでに留まっているという印象。せつかくの情報機器のもう少し有効な活用方法を探れるとよいと思う。
- ・地域の学習も 6 年間同じ場所に行くのも面白いのではないかな。発達段階に応じて視点が変わって、振り返ったときに成長を感じることができるのではないかな。
- ・地域での学習は大人が子供に何かを与えるのではなく、地域の大人が子どもと関わることで大人も子どももお互いに学び合う場になってほしい。
- ・地域の人材活用により教員の負担を少なくしたい。教員の指導だけでは限界がある。その道のプロは探せば、呼びかければ必ず出てくる。プロの技術に任せられるものは積極的に任せたい。
- ・地域に学習の場を広げることでお互いに地域の良さを再認識し、子どもが増尾地域を継いでくれる大人になってくれるのではないかな。

(3) 生徒指導について

① 評価結果

- ・問題行動に先生方が対応している様子が見える。
- ・現状の学校の対応に不安はない。
- ・先生が相談しやすい立場にたったださっていると思う。

② 改善点

- ・子供の悩みについて、すぐに大人が複雑にしてしまう傾向にある。初期段階で語ることで解決できるのではないかな。
- ・子供からの話をよく聞いてもらいたい、変化に気づくように心がけてほしい。
- ・先生が見ていない所で起きていることについて、どれだけ嗅ぎ取れるか、学校内でのチェック機能を充実させてほしい。

(4) 学校行事について

① 評価結果

- ・コロナ禍において、学校側がやりたい行事・やれる行事と、保護者が希望する行事に違いがあるように感じる。保護者は特に生の姿を見たい。
- ・学校行事は児童が「たくさんのことを経験する場」、そしてそれを「考えて自分の向上につなげられるように指導していく」ことが重要なのかと思う。コロナ禍において遠くへ出かけて行って体験することがままならなくなって、改めて考えた時にこのことが一番大切なのではと考えた。しかし、当事者の親御さんにとってはそこまで冷静にとらえることが難しい。

・行事目標に向かって児童が努力しているのは、教師陣も意識しているからだと思う。

② 改善点

- ・大きな行事のときは、ビフォー・アフターでどのように成長したかを保護者に評価してもらおうと保護者の肯定回答も増える。
- ・地域を活かしたイベント、校内・校外で子供目線で楽しく学べること。
- ・地域の行事と学校との協働で出来る事を考えていければと思う。
- ・学校行事を小中で捉えることが大切かと思う。
- ・保護者が授業参観をもっと参加しやすい日程にしたい。土中のように授業参観習慣を作るとか。普段の授業を行えば教員の負担も少ないし、保護者も自分の子どもの学校での素顔も見ることができる。そうすれば家庭教育での課題も見つかる。

(5) 体育運動面について

① 評価結果

- ・身体を動かす活動が減少している。
- ・身体を動かすことが苦手となっている現代の親子も多く、小学生時代は思い切り外遊びや運動が大切。
- ・マスク、食の指導に先生方の努力の様子がうかがわれる。
- ・外部人材を活用しての取組みを多く聞き、大変心強い。

② 改善点

- ・挑戦する気持ちや達成感をもっと味わってほしいと思います。
- ・土小は昔から「歯」に関する意識も高かったので、今後も食育や口腔衛生を大切に考えてもらいたい。
- ・コロナ対策を講じた運動を続けてもらいたい。
- ・意識の向上を図るためにも、年度始めの数値と年度末の数値を比較して示すのもよい。
- ・タブレットを使った学習の最後に、目の体操やストレッチを入れてはどうか。
- ・外の空気を吸いながらの身体づくりはたくさん実施してほしい。

(6) 開かれた学校づくりについて

① 評価結果

- ・細かく発信されていて先生方の取組みが感じられる。
- ・紙媒体の簡素化はありがたい時代に合ったものと高く評価している。LINEへの移行も期待。
- ・学校、学年だより、HP、校長室だより等努力している。
- ・町会に回覧するカラーの百年桜(学校だより)はよい。
- ・カメラ常設で決められた期間のみ映像配信などの形で、素の学校の様子を見ていくことはできないだろうか。現状の配信(おたよりや校長室だより)では実体が見えにくいと感じる。

② 改善点

- ・紙の良さもあるので、両方を上手に使い分けて欲しい。
- ・コロナ禍で難しいですが、先生方に地域のことを知ってもらうことで、地域とのつながりもでき、自ずと開かれた学校になっていくのではないかな。
- ・管理職の話しやすさが低いのが気になる。しかし、職員が気軽に相談等につけてくれるため、管理職と話す機会が少ないのであればそれはそれでよい。
- ・年1回でよいので、地域の住民に学校の通常の授業日の様子を公開してほしい。
- ・感染症などの来校の制限がある・なしに関係なく、行事は保護者がもっと気兼ねなく来校できる場を設定してほしい。そのほうが学校や子どもの様子をよく見られるのではないかな。

6 評価に関する総括（自己評価）

令和3年度学校経営の総括評価として、概ねよい結果であると総括したいと思います。

その根拠としては、まず教職員が本校のグランドデザインで示した「卒業時に目指す姿」にあげた9つの資質・能力に対して、目標申告の目標に8つの資質・能力を選択し、選択のべ人数は60人となっており、一人一人の教職員が学校経営の柱とする目標に向けて取り組んでいたことです。目標を共有した上で、その実現に向けて個々の力を発揮することが概ねできていたと考えます。

次に、児童の結果から分析すると、学校で行った児童のアンケート調査結果から、概ね満足とする結果が得られています。さらに、柏市が実施した生活実態調査から9つの資質・能力と関連する20項目を抽出して、柏市全体と比較したところ次の項目数で肯定的回答が柏市よりも高い結果を得られていました。柏市よりも肯定的回答が多かった件数は、1年＝19/20 2年 18/20 3年＝20/20 4年＝7/20 5年＝14/20 6年＝18/20 となり、約80%の項目でよい結果を得られており、児童の状況にも反映していることが確認できました。

学校関係者評価においても、概ねよい結果をいただいております。現在、2021年度の教育課程を振り返りその反省に基づいて「土っ子学びの地図2022」を作成しており、グランドデザインに示した短期目標は年度末までに達成できると予定しております。

7 次年度に向けた課題

2022年度に向けた課題を以下の4点に重点をあてた取り組みを行っていきます。

- ・学校経営グランドデザインに示す卒業時に目指す姿を3月中に確認した後、4月にも新職員を交えて確認し、低学年、中学年における目指す姿を夏休みまでに見出すこととする。（目標の明確化・具体化）
- ・卒業時に目指す姿の9つ資質・能力を育むために、どのような実践を行うか、教職員一人一人の目標申告とのリンクを明確にしていく。（目標に向けた手立ての具体化・個別化）
- ・学校経営グランドデザインに示す、目標・手段・取り組みについて、保護者や地域の理解を深め、共に実践に参加してもらえるよう、教育課程説明会、教育ミニ集会、各学年懇談会、学校運営協議会等を活用しコミュニティ・スクールの柱としていけるようにする。（目標の周知・共有）
- ・保護者や地域と共にある学校を具体化させるために、総合的な学習の時間と生活科を研究教科と位置付け、地域の課題や魅力が子供たちの課題となる課題解決型の学習（PBL）単元を構築できるよう、全職員で力を合わせて取り組む。（目標達成に向けた具体的実践の創造）